

「やさしい日本語」から、つながろう」 大阪市生野区役所が取組む、新たなコミュニティづくり事業

大阪市生野区は、外国籍住民比率が都市部日本一で、住民の5人に1人が外国籍です。60カ国以上の国から集まったさまざまな人たちが暮らしています。

こうした背景を受け、2018年8月より生野区役所では、「やさしい日本語」から始まる新たなコミュニティづくり事業「やさしい日本語」から、つながろう」を立ち上げ、区民主導で実施しています。この事業は、「やさしい日本語」をコミュニケーションツールのひとつとして、「人と人」がつながるきっかけとなる取組みです。

10月には、この取組の想いをまとめた趣意書を発表、この取組に賛同する協力者、協力店舗へ配付する生野区オリジナルの缶バッジ・ステッカーのデザインも決定しました。そのデザインは、汎用性の高いものにし、ホームページから自由にダウンロードできるようにしました。

生野区役所の担当者は、趣意書について、「生野区には、すでに多文化共生に向けた得難い歴史の財産があります。多様性の尊重によって新しいエネルギーを生み出し、豊かなまちづくりにつながるよう、また、この想いが大阪中に、そして日本中に広がることを願い、その想いを趣意書にまとめました」と話しています。

オリジナルの缶バッジ、ステッカーは、「やさしい日本語『話します』」と「やさしい日本語『話してください』」の2種類があり、国籍やルーツ、日本語が得意・不得意にもかかわらず、「人と人」がつながるきっかけとなるひとつのツールとして好きな方を選べるようになっていきます。10月21日に開催された区民まつり「生野まつり」では、やさしい日本語の会話体験ブースを出展し、協力者には缶バッジを、協力店にはステッカーを配布をしました。

さらに、12月9日には、「やさしい日本語」によるコミュニティイベント「TATAMI TALK (タタミ トーク)」を開催しました。このイベントは、区民参加のワークショップで提案があり、実現したものです。区民ホールに畳を敷きコタツをならべた会場では、さまざまな国の言葉で聞く世界の絵本の読み聞かせや、それぞれ国の民族衣装でランウェイを歩くファッションショーを行ったりするなど、韓国・朝鮮をはじめ、中国、ベトナム、フィリピン、ネパール等の各国と日本の文化に触れることができました。また、違う国の人と「やさしい日本語」をきっかけに会話をし、3人と会話ができるとさまざまな国の料理が楽しめるという「話して、食べて、つながろう」をテーマとしたイベントを行われました。

日本人を含む600人以上のさまざまな国籍の外国人が参加し、大盛況のうちに終了しました。

このイベントをきっかけとして外国人の目線から考えて作成された、生野区内の「やさしい日本語協力店地図マップ」を配布しています。このマップは、「やさしい日本語」、英語、中国語、ハングル、ベトナム語の5カ国に対応し、「やさしい日本語」をきっかけに気軽に会話できる協力店を掲載しています。

今後の取組みについて、担当者は「在日韓国・朝鮮人の方々と共生の歴史を築いてきた生野区の歴史を踏まえて、近年急増しているアジア圏をはじめとした留学生等も含めた新たなコミュニティづくりを“区民主導”で進めていけるプラットフォームづくりを目指し、今後も取り組んでいきます」と話しています。

(平成30年作成)



問い合わせ先

大阪市生野区役所企画総務課 電話：06-6715-9683 Email：to0001@city.osaka.lg.jp
HP：http://www.city.osaka.lg.jp/ikuno/page/0000448076.html